



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ユニデン株式会社

1987年5月下旬、初夏のさわやかな日差しの下、ユニデン株式会社の東京証券取引所（以下東証）二部市場上場プロジェクトのメンバーは、段ボール箱四つに分納された製品のサンプルとともに、上場申請の書類を携え、東京証券取引所、上場審査室に向かって社有車を走らせていた。 10

これに先立つ1986年9月に株式の店頭公開を果たしてからわずか7カ月後というスピード上場申請ではあったが、ユニデンのような特殊な企業形態の会社が上場した先例がないことから、野村証券の公開引受部との間で、周到な準備が行われていたため、プロジェクトのメンバーは、かなり楽観的な見通しを持っていた。そのため上場申請後の数カ月にわたる審査をクリアして、秋口にはユニデンが二部上場を果たし、その後、短期間のうちに一部市場に指定替えを受けることを想像しながら、厳しい審査を受けるというよりも、楽しいドライブにでも行くといった雰囲気であった。 15

1985年後半からの急速な円高は日本企業の海外生産を加速させた。こういった日本企業の行動を念頭に置き、東証は海外での活動を中心とした日本企業についても、東証への上場を考えていく必要があると考え、それがユニデンに上場への道を開いたと言われていた。 20

ユニデン株式会社の概要

ユニデン株式会社は、1966年2月7日、現会長の藤本秀朗氏により実質的に創立された無線通信機器の製造販売を行うメーカーである。ユニデンの主力製品は大きく4つのカテゴリーに分類されていた。それは無線通信機器、無線応用機器、電話関連機器、衛星放送受信機器である。無線通信機器の中には、CB（シチズン・バンド・ラジオ→個人用のトランシーバーの一種）、業務用トランシーバー（主に車載用のVHF、UHF帯トランシーバーと海上無線用トランシーバー）、と日本国内で使用されるパーソナル無線基地局があり、無線応用機器にはレーダー・ディテクター（日本で言う車載用の、ねずみとり探知機）、スキャナー（無線傍受用受信器）、及び魚群探知機が分類され、電話関連機器には、コードレス電話及び、コード付き多機能電話（留守番電話、スピーカーフォン→受話器を置いた 25

このケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授太田康信の指導のもと同大学院経営管理研究科大村靖裕が作成したもので経営管理の適否を例示しようとするものではない。尚、ケース中の一部の数字、及び固有名詞は偽装されている。